

【フィールドからデスクから】

極東のバラートシ・バログ資料調査

ハンガリーのバラートシ・バログ・ベネデク Báráthosi Balogh Benedek (1870~1945) は20世紀初頭に、シベリアを中心とする広い地域で多くの民族資料の収集を行った。その一環として北海道・サハリンで収集したアイヌ民族資料を、1996~97年に当センターで借用し、内容を調査し報告書*の作成とともに、展示を行ったことは、すでに『センターだより』5号・10号で報告している。

ところで、バラートシが日本でのアイヌ民族資料を収集した時期（1903~1904、1914年の2回）は、日露戦争や第一次世界大戦などの混乱の時代と重なっている。そのため、収集資料の一部がヨーロッパへの輸送の途中で行方不明になっていることに気づいたバラートシはハンガリーからウラジオストックの博物館宛てに所在の問い合わせを行っている。しかし、その後資料はヨーロッパには届いておらず、また、それらが発見された記録もない。

今回の調査は、ハバロフスクやウラジオストックにバラートシが収集した資料が現存しているのか、また、現存していればどのような資料なのかということについて1999年10月18日から28日の日程を行った。

それぞれで確認できた資料は以下のとおりである。

◆ハバロフスク

ハバロフスク州立郷土誌博物館

所蔵資料で実見できたり、台帳で確認できたアイヌ関係資料は36点であった。その内、バラートシ収集と記録されているのは6点である。

*バラートシのアイヌ民具収集については『バラートシ バログ コレクション調査報告書』(1999)を参照してください。

• 民具資料

魚皮衣（1点）のほか、未使用の匙（4点）、フォーク（1点）。

匙、フォークはハンガリー民族学博物館の所蔵資料にある、イチイ製の土産品とほぼ同様の資料。計測と写真を行う。

• 展示室

アムール川流域の諸民族資料と並んでアイヌ資料が7点展示されている。〔写真1〕

• その他

バラートシが自分の収集した資料の所在を問い合わせたドイツ語の手紙等10点。複写を行う。

写真は7点あることになっているが、実見できなかった。

バラートシが録音したという蠟管レコードは、存在した記録はあるが、現物は見あたらなかった。

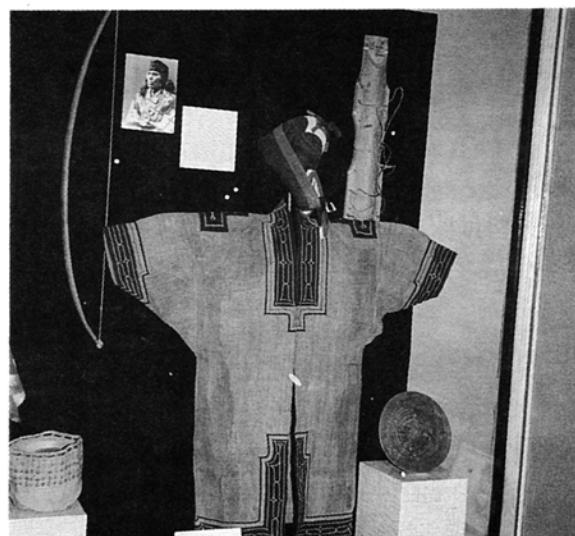
◆ウラジオストック

アルセニエフ博物館

実見及び台帳で確認できたアイヌ民具資料は66点であるが、バラートシの収集資料は含まれていない。

• 民具資料

収蔵資料のうち約20点を見せていただき、サイズ



〔写真1〕

等を記録した。ただし、場所と時間の関係で写真は撮影できず、展示資料の番号も確認できなかった。

台帳によれば資料の約半分は1903年にポーランドの民族学者・ピウスツキが収集したものである。その他は、初代町長を務めたヤコフ・セミヨーノフがサハリン（樺太）のホルムスク（真岡）で1885年に収集した織機など、1880年代の収集資料であった。

•展示室

ハバロフスクと同じく民族資料の展示の一角に20点ほどのアイヌ資料が展示されている。〔写真2〕

別の展示室にトンコリ（樺太アイヌの楽器）が展示されている。



〔写真2〕

•その他

写真資料は収蔵しているが担当者不在で見ることはできなかった。^{ろうかん}蠟管レコードはないということである。

また、地理学協会極東支部と科学アカデミー極東支部の2箇所も訪れたが、いずれにもバラートシ関連の資料はなかった。

谷本一之（所長）、古原敏弘（研究課長）

【問い合わせあれこれ】(4)

アイヌ語の辞典について

当センターに寄せられる問い合わせの半数以上はアイヌ語に関連するものです。中でも、単語の意味を知りたい、アイヌ語の表記について知りたい、というようなものが多くあり、その際利用できる辞典についての問い合わせも多く受けています。

※ ※ ※

今回はアイヌ語辞典の中から、近年刊行され、入手・閲覧しやすいものについてご紹介します。

以下に紹介する辞典の特徴として、文法記述が正確であること、どの地域のどの話者の言葉なのかという情報が明記されていること、見出し語が多く、品詞や意味の説明に加えて用例をつけて、単語が使われる文脈を示していること、などが挙げられます。

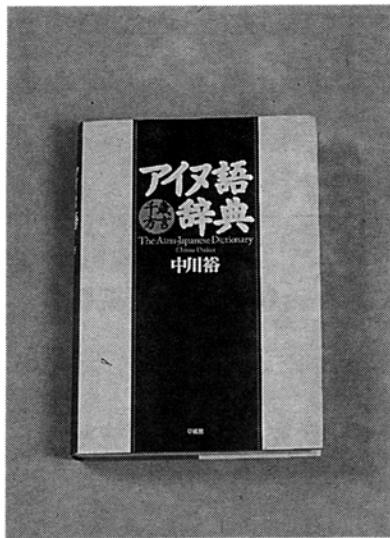
アイヌ語には標準語や共通語というものは今のところありません。以下の辞典には、「千歳」、「沙流」などという地域名や個人名がタイトルに記しています。これは、それぞれの地域において主に一人ないしは数人から聞いたアイヌ語を基本に辞典を作成しているためです。

また、正書法というのも定まっていませんので、それぞれの辞典で表記の方法が異なっています。凡例や利用のしかたについては各辞典の解説をご利用下さい。

•『アイヌ語千歳方言辞典』 中川裕 1995年 草風館 9,515円（税別） A5判 431ページ [写真1]

見出し語の数は約3,700で、北海道千歳市で採録されたものです。表記はカタカナとローマ字の併記で、五十音順に配列されています。例文も豊富で、原資料の情報（話者、採録年月日、資料のジャンル別など）が記されています。巻頭には「この辞典の

利用法」と題して表記や文法事項についての解説があります。



[写真1]

- ・『萱野茂のアイヌ語辞典』萱野茂 1996年 三省堂 9,800円（税別）A5判 567ページ [写真2]

見出し語の数は約8,000で、著者が生まれ育った北海道日高・沙流川流域のアイヌ語を採録したものです。

表記はカタカナを中心とし、見出し語にはローマ字を併記しています。五十音順に配列されており、日本語索引もついています。例文と共にアイヌ文化に関する情報も多く含まれています。

また、この辞典の内容をすべて収録したCD-ROM版『萱野茂のアイヌ語辞典CD-ROM』1999年 三省堂 9,800円（税別）も市販されています。見出し語の全てに萱野氏の発音による音声がつき、挿し絵、アイヌの民具の画像・映像を見ることができます。



[写真2]

- ・『アイヌ語沙流方言辞典』田村すず子 1996年 草風館 18,000円（税別）A5判 876ページ [写真3]

見出し語の数は約9,400、北海道日高・沙流川流域で採録されたもので、5,000を超す用例や説明があります。

表記はローマ字とカタカナの併記で、アルファベット順に配列されています。

巻末の「アイヌ語沙流方言略説」にアイヌ語の特徴や文法の説明があります。

巻頭の「本書を利用するため」に凡例、原資料についての情報（話者、資料のジャンル別）、表記と発音についての説明、主な話者の紹介等があります。

※ ※ ※

その他入手が困難なもの、高価なものや比較的専門的な内容をもつアイヌ語辞典等がありますが、それらは機会を改めてご紹介します。



[写真3]

澤井春美（研究課・研究職員）

【アイヌ語一口メモ】

普段、身近にアイヌ語を見たり聞いたりしても肝心の意味を知らないまま過ごしていることはありませんか。そのような言葉について取り上げるシリーズです。

(1) ピリカ pirka

「ピリカ」とか「ピルカ」という文字をいろいろな商品名や飲食店の看板などで見ることができます。また、「エトピリカ」という名前の鳥が紹介されたり、「知床旅情」という歌の中にも「ピリカが笑う」という一節があつたりします。鳥の名前のもとは「エトゥ・ピリカ etu-pirka (くちばし・美しい)」というアイヌ語から名づけられ¹、歌詞に使われている「ピリカ」は「美しい（女性）」という意味が込められていると考えられます。

「ピリカ」をアイヌ語として発音するときは、ピの音を高く発音します。リの個所は母音がついていないrだけの音なのでローマ字ではpirkaと書き、カタカナで書くときはrの直前にある母音iに引かれた形で小さく「リ」として「ピリカ」と書く方法が現在広く用いられています。実際には「ピルカ」のようにも聞こえる音なのでそのように書いているものもあります。アイヌ語辞典には「良い。美しい。立派だ。元気だ。素晴らしい。良くなる。美しくなる。治る。」²、「よい、美しい、上質である、結構／好都合である、よくなる、病気がなおる。」³、「よい、美しい。きれい、かわいい、正しい、立派な、なおる、栄える。」⁴などと意味が書かれています。美貌や能力を持っていたり、品質や性格がよかつたり、天気がよかつたり、健康でいられたり、村や家が栄えたりすることなどといろいろな場面で

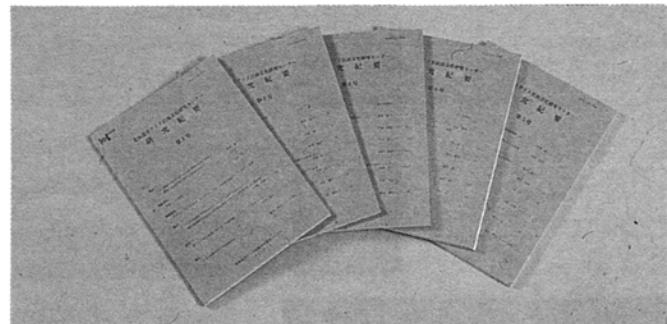
使える言葉です。人間にとってはどれもが望ましい状態のことを表しています。また、アイヌ語を知っているお年寄りにものを頼んだときに「ピリカ、ピリカ（いいよ、いいよ）」と答えられることもあります、「わかったよ。了解したよ」というときの返答としてもよく使われています。

大谷洋一（研究課・研究職員）

『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』

1号～5号の総目次

当センターでは、アイヌ文化研究の成果報告を目的として、論文、調査報告や資料紹介などを掲載した研究紀要を刊行しています。1994（平成6）年の開所時から毎年1号ずつ、現在6号まで刊行しています。ここでは1号～5号について紹介いたします。



1号（1995年3月刊行）

◇論文 アイヌ農耕史研究にみられる伝承資料利用の問題点

－穀物の起源説話に関する検討を中心に－ 米田優子

◇調査報告 松島トミの伝承 大谷洋一

◇調査報告 沢井トメノさんが語るツッポクシペッ

“cuppokkuspet” 沢井春美

◇論文 アイヌ古式舞踊伝承団体のレパートリーにおける歌

をめぐって－国的重要無形民俗文化財の追加指定を受けた9団体の歌の記録追補－ 甲地利恵

¹ 知里真志保『知里真志保著作集 別巻I』平凡社 1976

² 中川裕『アイヌ語千歳方言辞典』草風館 1995

³ 田村すず子『アイヌ語沙流方言辞典』草風館 1996

⁴ 萱野茂『萱野茂のアイヌ語辞典』三省堂 1996

- ◇研究ノート 第二次世界大戦期における「戦勝祈願」の力
　　ムイノミをめぐって 小川正人

- ◇論文 アイヌ語静内方言の接続助詞 奥田統己

2号 (1996年3月刊行)

- ◇論文 言語地理学によるアイヌ語の史的研究 中川 裕

- ◇論文 歴史研究の資料としてのアイヌ口頭文芸 奥田統己

- ◇資料紹介 「オンネバシクル」のアイヌ語原文資料

大谷洋一

- ◇調査報告 にわとり神の自叙伝 澤井春美

- ◇調査報告 沙流川筋中流域における、イナウに使用する樹木に関する報告（その1） 貝澤太一

- ◇論文 「北海道旧土人保護法」「旧土人児童教育規程」下のアイヌ教員－江賀寅三と武隈徳三郎を中心に－ 小川正人

- ◇研究ノート 学校教育における「アイヌ文化」の教材化の問題点について－1960年代後半以降の教育実践資料の整理・分析を中心として－ 米田優子

- ◇論文 エムシについて－とくに鞘と柄の製作技術について－ 古原敏弘

3号 (1997年3月刊行)

- ◇論文 東京国立博物館のアイヌ民族資料（上） 佐々木利和

- ◇研究ノート アイヌ口承文芸にあらわれる植物および植物神について 本田優子

- ◇研究ノート 「貝澤こゆきのイヨハイオチシ」について 甲地利恵

- ◇調査報告 小川シゲノから上田トシへの伝承 大谷洋一

- ◇調査報告 本別コタンとサマイクルカムイのウチャシコマ 澤井春美

- ◇調査報告 沙流川筋中流域における、イナウに使用する樹木に関する報告（その2） 貝澤太一

- ◇資料紹介 江賀寅三関係資料：目録と紹介 小川正人

- ◇論文 アイヌ語静内方言の副助詞と終助詞 奥田統己

4号 (1998年3月刊行)

- ◇論文 東京国立博物館のアイヌ民族資料（下）

佐々木利和

- ◇論文 ハリギリの丸木舟 民族誌資料／考古資料／口承文芸資料にもとづく一考察 本田優子

- ◇調査報告 小川シゲノから上田トシへの伝承2 大谷洋一

- ◇調査報告 チカラカライミの模様のいわれ 澤井春美

- ◇資料紹介 織田ステノのイコペナカ 奥田統己

- ◇論文 アイヌ語静内方言の後置副詞 奥田統己

- ◇資料紹介 幌別におけるアイヌ学校設立申請関係資料 小川正人

5号 (1999年3月刊行)

- ◇論文 北海道大学農学部博物館のアイヌ民族資料（上） 沖野慎二

- ◇研究ノート アイヌ語の kotan と13世紀の中国史料にみえる豁瞳 ホトン 中村和之

- ◇研究ノート ヤナギに関する一考察－アイヌの丸木舟に用いるヤナギの樹種の同定とその学名について－ 本田優子

- ◇調査報告 コロボケウンクル 澤井春美

- ◇調査報告 小川シゲノから上田トシへの伝承3 大谷洋一

- ◇研究ノート 朗唱される祈りの旋律について－二谷一太郎氏の場合を例に－ 甲地利恵

- ◇資料紹介 音更（開進）尋常小学校関係資料 小川正人

- ◇論文 アイヌ語静内方言の格助詞 奥田統己

- ◇資料紹介 『北海道土人陳述書』－アイヌ陳述に対する北海道庁弁明書（1895年）－ 井上勝生

研究紀要是、道内外の国公立・私立大学、図書館・博物館、アイヌ関係団体、関係研究機関などに配布しています。

また、北海道行政情報センター（北海道庁別館〔札幌市中央区北3条西7丁目 電話011-231-4111または011-241-7979〕3階）にて有償頒布しております。

(価格) 1号 残部なし	2号 1,780円
3号 2,000円	4号 1,710円
5号 1,810円	6号 1,690円

◆アイヌ文化講座のお知らせ◆

平成12年10月27日、稚内市において、稚内市教育委員会と当センターの共催でアイヌ文化講座を開催いたします。要綱は以下の通りです。
なお、参加は無料です。

ソウヤウンクルと出会った人々 －文化のクロスロード、稚内－

講師：佐々木利和氏

（東京国立博物館資料部資料第二研究室長）

日時：平成12年10月27日（金曜日）

18:30～20:30（18:00 開場）

会場：稚内総合文化センター会議室（定員90名）

稚内市中央3丁目

お問い合わせ：

北海道立アイヌ民族文化研究センター研究課

011-272-8801

稚内市教育委員会文化振興課 0162-22-2727

- ・『本別町生活文化誌』編集会議（札幌市／参加：澤井）
- ・共同研究「北海道を中心とするアイヌ語諸方言の記録・整理」研究会議（東京都／参加：澤井）
（6月）
- ・第1回センター運営協議会
- ・第24回日本口承文芸学会大会（千葉県/参加：大谷）
（7月）
- ・共同研究「ロシア・アイヌ資料の総合調査研究－極東博物館のアイヌ資料を中心として－」（ロシア連邦共和国／参加：古原）
- ・第433回東洋音楽学会定例研究会（東京都／発表：甲地）
（9月）
- ・共同研究「ロシア・アイヌ資料の総合調査研究－極東博物館のアイヌ資料を中心として－」（ロシア連邦共和国／参加：古原）
- ・第3回資料保存協議会セミナー（東京都／参加：小川）

【センター刊行物のお知らせ】

今年度は以下の刊行物を予定しています。

- ・アイヌ文化紹介小冊子『ポン・カンピソシ 6 ウエネウサラ（口頭文芸）』
- ・『アイヌ民族文化研究センターだより』第14号
- ・『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第7号
- ・『久保寺逸彦文庫 文書・写真資料目録』（仮題）

【平成12年度前半の主な動き】

（4月）

・総務課・武田浩司主任異動、盛本昌昭主任着任

（5月）

編集・発行 北海道立アイヌ民族文化研究センター

〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7 5F

Tel. 011-272-8801(代) Fax. 011-272-8850

開館/月～金9:00～17:00 休館/土・日・祝